令和6年度 日南市立東郷小中学校 校内研究のまとめ

Ⅰ 研究主題

基礎的・基本的な学力の定着を図り、主体的に学ぶ児童生徒の育成

～児童生徒の実態把握と授業改善の実践を通して～

Ⅱ 主題設定の理由

近年の社会は、AI、ビッグデータ、ICT 等の先端技術が高度化し、あらゆる産業や社会生活に取り入れられ、どのような業種においても効率良く、質の高いタスクを果たすためには ICT の活用スキルが欠かせない。また、急激な社会の変化とともに、あらゆる通信機器により膨大な情報を容易に手に入れることができるデジタル化社会も進んでいる。このような社会の中で、学校においても ICT の効果的な活用が一層求められている。学習指導要領に示されている「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成、「学びに向かう力・人間性等」の涵養の三つの柱をバランスよく育成するため、文部科学省は、個別最適な学びと協働的な学びの充実や、教育の質の向上をめざして「GIGA スクール構想」を推進し、高速大容量の通信ネットワーク環境の実現にむけて環境整備を進めている。子どもたちが2030年の社会で多様な人々と協働し、持続可能な社会の担い手となるために、学校教育には誰一人取り残すことなく、互いを認め合いながら三つの柱の育成を図ることができる学習活動が求められている。

本県は、「県教育振興基本計画」において、「たくましいからだ 豊かな心 すぐれた知性」を育む教育を推進するためのスローガンとして「未来を切り開く 豊かな心でたくましい 宮崎のひとづくり」を掲げている。また、本県が目指す教育の実現にむけて本市は「日南市教育振興基本計画」において、目指す児童生徒像として「新時代を生き抜く『4つの学ぶ力』を身に付けた児童生徒」を謳っている。4つの学ぶ力とは、「他者から学ぶ力」、「自ら学ぶ力」、「自然から学ぶ力」、「社会から学ぶ力」のことであり、個別最適な学びと協働的な学びの一体化の充実こそが本市の目指す児童生徒の育成につながると言える。

本校は、『豊かな心で、自ら学び考え、たくましく生きていくことができる子どもの育成～小中一貫した連続性のある教育活動の推進～』を教育目標に掲げる小中一貫校である。児童生徒は素直で明るく、生活態度も落ち着いている。また、行事等で小中学校が合同で行うこともあり、教職員も子ども達も小中学校の垣根を越えて協働する姿がよく見られる。しかし、学習面においては、真面目に授業に取り組む児童生徒が多い一方、個別な支援が必要な児童生徒も増えてきた。また、多様な価値に触れ、自分の考えをさらに深め広げるなど主体的に学びに向かおうとする児童生徒ばかりではないのも事実である。つまり、個別な支援が必要な児童生徒を取り残すことのない授業や、自分の考えや意見を他者のものと比較し、再構築させる学習場面の設定が本校の課題である。本校の児童生徒が、複雑で予測困難な社会の中で、あらゆる変化を前向きに受け止め、新しい未来を生き抜くためには、この課題を学校教育全体で解決していく必要がある。

そこで、「ひなたの学び」の実践で学びに向かう力の育成を図ったり、ICT を効果的に活用し個別最適な学びと協働的な学びを充実させたりするなど、授業改善に教師が取り組むことで、基礎的・基本的な学力を図り、主体的に学ぶ児童生徒の育成を目指すこととした。まずは、全職員で「ひなたの学び」の在り方について共通理解を図り、個別最適な学びや協働的な学びの充実のために、ICT の効果的な活用についても研究を深め、授業改善を図りたい。また、児童生徒の実態把握から成果や課題を明確にし、指導内容や方法の工夫改善を行うことが学力向上には欠かせないと考える。そうすることで、誰一人取り残されることのない授業において児童生徒の基礎的・基本的な学力の確実な定着を図ったり、児童生徒が互いに意見を交流させる中で主体的に学ぶ態度を育成したりできると考え、本主題を設定した。

Ⅲ 研究の目標

児童生徒の基礎的・基本的な学力の確実な定着と、主体的に学ぶ児童生徒の育成

Ⅳ 研究の仮説

授業改善の視点から教師が個々の授業の在り方を見直すとともに、ICT の効果的な活用をもとにした個別最適な学びと協働的な学びの充実を図れば、児童生徒の基礎的・基本的な学力の定着が図られ、主体的に学ぶ児童生徒の育成につながるだろう。

Ⅴ 研究の内容

1 児童生徒の実態把握

2 「ひなたの学び」の実践とICT機器の効果的な活用等による授業改善

Ⅵ 研究の全体構想図

新時代を生き抜く『4つの学ぶ力』を育てる日南教育

「他者から学ぶ力」「自ら学ぶ力」「自然から学ぶ力」「社会から学ぶ力」

社会の要請
関係諸法規
学習指導要領
県・市教育施策

学校の教育目標

豊かな心で、自ら学び考え、たくましく生きていくことができる子どもの育成

～小中一貫した連続性のある教育活動の推進～

地域の実態
学校の実態
児童生徒の実態

目指す学校像

- ○ 明るく活気に満ち、夢と希望のある学校
- ○ 尊敬と信頼に支えられた学校
- ○ 地域に開かれ親しまれる学校

目指す子ども像

優しい子ども（優しく）
賢い子ども（賢く）
たくましい子ども（たくましく）

目指す教師像

- ○ 教育愛に燃え、実践する教師
- ○ 教育目標の具現化に取り組む教師
- ○ 子どもの可能性を引き出し伸ばす教師

東郷小中学校の目指す子ども像

4つの学ぶ力	他者から学ぶ力	互いに考えを伝え合い、自他の考えのよさに気付き、かかわり合いながら、学習を振り返ることができる子ども
	自ら学ぶ力	問題意識をもち、意欲的に課題解決に取り組み、自分の課題について「分かる」・「できる」子ども
	自然から学ぶ力	東郷や日南のふるさとの自然や文化に親しみ、よさを誇ることができる子ども
	社会から学ぶ力	地域や社会に興味・関心をもち、積極的に課題を解決しようとする子ども

【研究の仮説】

授業改善の視点から教師が個々の授業の在り方を見直すとともに、ICTの効果的な活用をもとにした個別最適な学びと協働的な学びの充実を図れば、児童生徒の基礎的・基本的な学力の定着が図られ、主体的に学ぶ児童生徒の育成につながるだろう。

基礎的・基本的な学力の定着を図り、主体的に学ぶ児童・生徒の育成

～児童生徒の実態把握と授業改善の実践を通して～

研究内容

1 児童生徒の実態把握

2 「ひなたの学び」の実践とICT機器の効果的な活用等による授業改善

Ⅶ 研究計画

月	日	研修形態	内容
5	1	第１回全体会	○ 昨年度までの校内研究概要説明 ○ 主題・内容・今年度の研究の方向性の確認と提案 ○ 共通実践内容について（協議） ○ 実態把握（児童生徒）第1回アンケート（提案）→ 実施
6	5	第２回全体会	○ 共通実践内容（共有） ○「ひなたの学び」について（協議）
7	25	第３回全体会	○「ひなたの学び」を具現化した授業づくり（教科班）
8	21	第４回全体会	○ 全国学力学習状況調査等、諸調査の分析（共有） ○ 相互参観授業の計画（教科） ○ 授業内容について検討
9	4	第５回全体会	○ 相互参観授業に向けて検討会Ⅰ（教科班） （個別最適な学び・協働的な学び・ひなたの学びの視点から）
10	16	第６回全体会	○ 相互参観授業（Ⅰ期）について授業研究会 ○ 相互参観授業に向けて検討会Ⅱ（教科班） （個別最適な学び・協働的な学び・ひなたの学びの視点から）
11	20	第７回全体会	○ 相互参観授業（Ⅱ期）について授業研究会 ○ 相互参観授業に向けて検討会Ⅲ（教科班） （個別最適な学び・協働的な学び・ひなたの学びの視点から） （小学校４年生、中学校１年生でみやざき学習状況調査の実施）
12	24	第８回全体会	○ 相互参観授業（Ⅲ期）について授業研究会 （ 小学校で CRT テストの実施 ） ○「ひなたの学び」の視点から授業改善における成果と課題（教科班）
1	22	第９回全体会	○ みやざき学習状況調査の分析（共有） ○ 実態把握（児童生徒）第2回アンケート分析
2	19	第 10 回全体会	○ 研究のまとめ・次年度の方向性

全国学調・みやざき学テ・実力テスト・CRT 等の諸調査の分析を随時行う

Ⅷ 研究の実際

1 児童生徒の実態把握

(1) 「ひなたの学び」に関わる児童生徒の意識調査

まずは、本校の児童生徒の「学びに向かう力・人間性」について実態把握が必要であると考え、５月と１月に小学校３年生から中学校３年生まで意識調査アンケートをとった。アンケートの内容は以下の通りである。

	質　問　内　容	小学校	中学校
1	将来の夢や目標を持っていますか。	93	81
2	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。	79	77
3	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	69	61
4	これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	77	86
5	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。	77	88
6	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につながることができていますか。	78	75
7	「わからないこと」や「疑問に思ったこと」をわかるようになりたいと思う。	86	89
8	難しい問題にも最後まで取り組もうとしている。	85	68
9	友だちといっしょに学ぶことで、新しい発見をしたり、新しい考えをもったりすることができる。	88	91
10	家族や地域の方との会話や活動を通して、自分の考えが広がったり、深まったりする。	77	82
11	学ぶことは楽しい。	90	76

1～6 は全国学力・学習状況調査質問紙より

7～11 は宮崎県教育委員会義務教育課「ひなたの学び」による目指す生徒像より

　　は肯定的な回答が 80%以下の質問

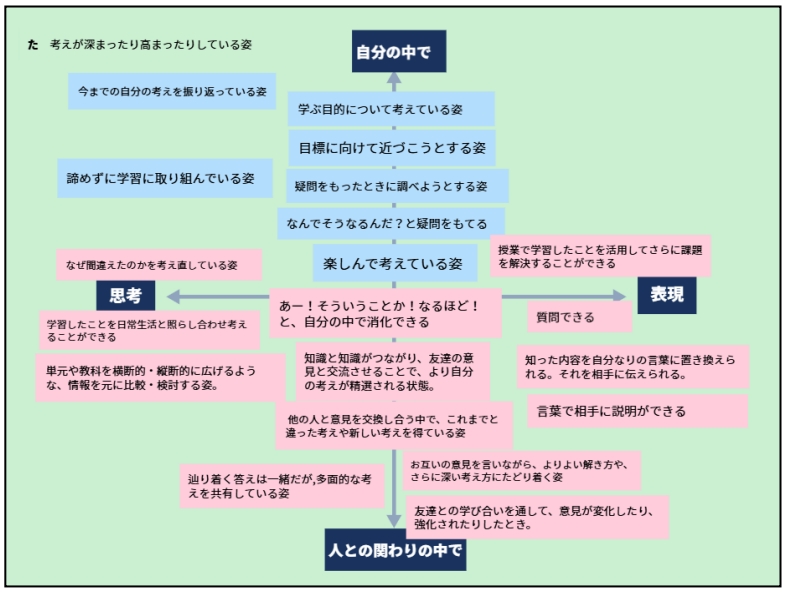
□は変容が見られなかった質問

□はプラスの変容が見られた質問

本アンケートの結果より、今年度行ってきた授業改善の成果として、「難しい問題にも粘り強く取り組む児童生徒」や「仲間との協働を通じ新しい発見や豊かな発想を持てるようになった児童生徒」の育成が挙げられる。一方で、小学校では「課題解決にむけて、あきらめずに粘り強く取り組む力」、中学校では、「難しい問題に最後まで取り組む力」が十分身についていない児童生徒がいることがわかる。また、小学校では、「友だちと学ぶことで、新しい発見があったり、新しい考えをもつことができたりしているものの、自分の考えを深めたり、広げたりするに至っていない」と児童自身が感じていることが課題として残った。

(2) 「ひなたの学び」の実践による目指す児童生徒像

「ひなたの学び」の実践を通して本校の児童生徒をどのように育成させたいかについて、全職員で共通理解を図った。Ⅰ(Ⅰ)のアンケートによる実態把握をもとに、ゴールイメージを持つことが大切だと考えた。その方法として、児童生徒が授業の中で「ひとりひとりが問いをもち」「なかまとなって学び合い」を行った結果、どう感じた、またはどう変化した状態が「深く考える力が高まった」と言えるのかについて自由に意見を出し、ロイロノートのシンキングツール上で整理した。このゴールイメージをもとに、Ⅰ単位時間の授業やⅠ単元の学習を通して、児童生徒のどのような変容を期待するかを明確にし、単元の構成や授業づくりを行うことが必須であることを確認した。特に、相互参観授業前後のグループ協議においては、「ひなたの学び」を具現化する授業になるか、またそのような授業になったかどうかを議論するための資料の一つとした。



〈「ひなたの学び」の実践による目指す児童生徒像〉

(3) 諸テストの分析

客観的なデータ分析を行い、課題に対する手立てや工夫改善すべき点を明らかにし、授業改善を行った。以下が課題と手立てについてまとめたものである。左枠が課題、右枠が手立て・工夫改善になる。

① 小学校

(ｱ) 全国学力・学習状況調査

【国語】

条件に合わせて自分の考え等を書く力	考えをもたせ、表現させる活動

【算数】

論理的に説明・書く力	情報を整理し、導いた答えを説明する活動

(ｲ) みやざき学習状況調査

【国語】

根拠になっている内容の読み取る力	日頃から自分の考えと根拠を発言する習慣づけ

【算数】

式から面積の求め方を考察する力	多様な式から考えを推測し合う活動

(ｳ) CRT テスト

知識技能の習得	Ⅰ時間やⅠ単元ごとの学びの確認や振り返り

② 中学校

(ｱ) 全国学力・学習状況調査

【国語】

話し手や書き手の意図や概要を聞き取る力	新聞記事を使った読解力ワークシート
行書の特徴に関する知識	知識技能の習得を図るよう再度授業で説明
解答時間の不足	制限時間内に解答する練習

【数学】

回転する図形の軌道をイメージする力	実物や動画でイメージさせる活動

(ｲ)　みやざき学習状況調査

【国語】

自分の言葉で説明やまとめをする表現力	知識をつないで、表現する活動

【社会・理科・数学・英語】

情報を選択し活用する力	新聞記事を使った読解力ワークシート

(ｳ)　実力テスト

【５教科共通】

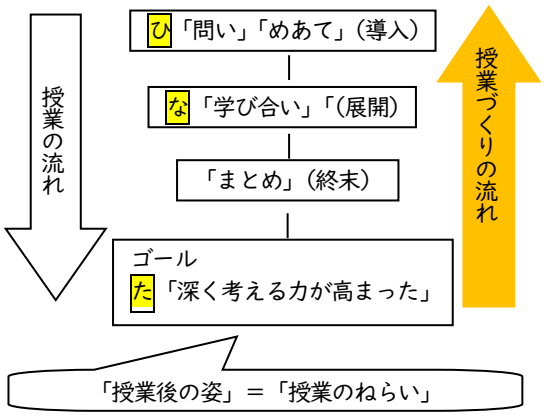
条件に従って、記述する力	自分の考えを表現する活動 自分と他者の考えを比較し、深める活動

形だけの授業改善にならないように、本校の児童生徒に必要な力を明らかにすることで、各学年の児童生徒に必要な手立てや活動が明確になった。その結果、具体的な視点での授業改善につながり、児童生徒にも変容が見られるようになった。5 教科全体の推移を見ると、昨年度末に比べて無解答の問題が減少した。特に数学においては、無解答率が大幅に減少し、自分の考えを表現する力が向上したことが明らかである。

2 「ひなたの学び」の実践と ICT 機器の効果的な活用等による授業改善

(1)　「ひなたの学び」を具現化するための授業づくり

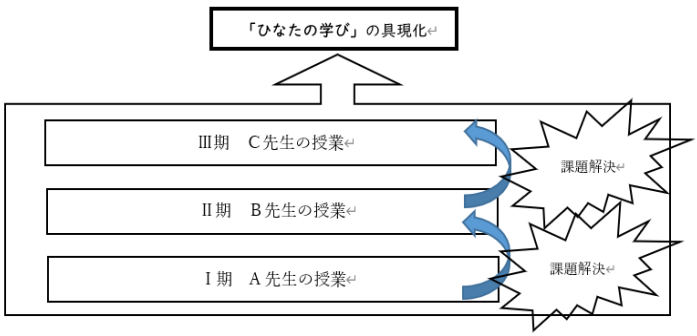
1 (2)の実践で、「ひなたの学び」を通して児童生徒が「深く考える力が高まった」姿を明確にした後、そのような姿をゴールとするときに、終末における「まとめ」、展開での「学び合いの場」、導入での「問い」や「めあて」をどう設定すればよいかについて協議を行った。児童生徒のどのような姿をゴールとしてイメージするかによって、「めあて」と「まとめ」、「対話的な学びの形態や相手」も変わる。授業づくりワークショップを通して、児童生徒に「何を身につけさせるのか」「どんな力をつけたいのか」等授業のねらいを明確にすることの大切さを再確認し、日々の授業実践につなげることができた。



〈ゴールイメージから進めた授業づくり〉

(2)　相互参観授業

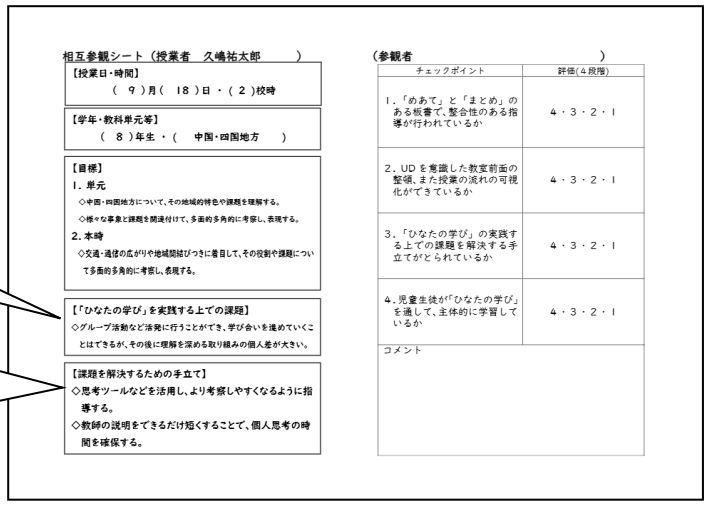
教科班（国語、算数、英語、社会理科）で３回の相互参観授業を行い、どのように「ひなたの学び」を実践していくかについて、協議をしながら授業改善を目指してきた。また、各教科班での相互参観授業の振り返りの中で、成果や課題、改善策を共有できるため、ICT の効果的な活用や「ひなたの学び」の実践を個人のスキルアップだけではなく教科全体のスキルアップにつなげることができた。また、教科班には校種や年齢層を超えた職員が混在するため、若手教員とベテラン教員がそれぞれの得意分野についてアドバイスするなど OJT の機能も果たせた。



〈授業改善のための相互参観授業イメージ図〉

教師によって授業を行う上での課題は異なるため、相互参観シートに「ひなたの学び」を実践する上での課題を掲載し、相互参観授業の目的が教師ひとりひとりの授業改善であることを明確にした。

授業改善のために「何をすべきか」、「どんな手立てや工夫が考えられるか」を授業者が考え、教科班で吟味し、実践へとつなげた。



相互参観シート（授業者　久嶋祐太郎　　）

【授業日・時間】
（ ９ ）月（ １８ ）日・（ ２ ）校時

【学年・教科単元等】
（ ８ ）年生・（　中国・四国地方　）

【目標】
1. 単元
◇中国・四国地方について、その地域的特色や課題を理解する。
◇様々な事象と課題を関連付けて、多面的多角的に考察し、表現する。
2. 本時
◇交通・通信の広がりや地域間結びつきに着目して、その役割や課題について多面的多角的に考察し、表現する。

【「ひなたの学び」を実践する上での課題】
◇グループ活動など活発に行うことができ、学び合いを進めていくことはできるが、その後に理解を深める取り組みの個人差が大きい。

【課題を解決するための手立て】
◇思考ツールなどを活用し、より考察しやすくなるように指導する。
◇教師の説明をできるだけ短くすることで、個人思考の時間を確保する。

（参観者　　）

チェックポイント	評価(４段階)
1.「めあて」と「まとめ」のある板書で、整合性のある指導が行われているか	４・３・２・１
2. UD を意識した教室前面の整頓、また授業の流れの可視化ができているか	４・３・２・１
3.「ひなたの学び」の実践する上での課題を解決する手立てがとられているか	４・３・２・１
4. 児童生徒が「ひなたの学び」を通して、主体的に学習しているか	４・３・２・１
コメント	

〈相互参観シート〉

Ⅸ 成果と課題

１ 成果

○　１(1)アンケート９の回答より、他者との関わりや会話を通して、自分の考えが深まったり広がったりしていることを生徒自身が実感していることがわかる。

○　１(1)アンケート７の回答より、「わからないこと」や「疑問に思ったことを」わかるようになりたいという考えをもった児童生徒が多く、主体的に学ぶ力が育成されていると言える。

○　１(1)アンケート８の回答より、肯定的な回答が小学生は８割を超え、中学生は増加したため、粘り強く学習に取り組む力が育っていると言える。

○　小学校のＣＲＴテストにおいて、知識・技能は全国平均に近い結果が出てきている。特に、２年生は、国語算数ともに全国平均を上回った。

○　中学校の全国学力・学習状況調査において、漢字や計算問題は、全国平均を大きく上回り、知識技能の習得が図れていると言える。

○　中学校３年生の実力テストより、どの教科においても無解答率が減っているため、問いに対する自分の考えをアウトプットしようとする生徒が増えたことがわかる。

２ 課題

●　１(1)アンケート４の回答より、授業において、自ら問いをもち、解決しようとする力を育成するような授業づくりを行う必要がある。

●　６の回答より、学習したことを次の学習と関連付けたりすることに課題があると言える。

●　小学校の全国学力・学習状況調査において、国語の「書くこと」の正答率が低く、「記述式」の無解答率が高い。また、算数も「記述式」の無解答率が高い。そのため、全ての教科で自分の考えをもたせる活動を取り入れる必要がある。

●　小学校のＣＲＴテストにおいて、算数の思考力に課題がある学年が多い。自分の考えを友だちのものと比較し、広げたり深めたりしながら納得解や最適解を導くことができるような授業展開になるような工夫が求められている。

●　中学校のみやざき学習状況調査において、領域によって到達度に差があることが分かった。習得が不十分だった領域については、類似問題等に繰り返し取り組ませていきたい。

●　中学校の全国学力・学習状況調査やみやざき学習状況調査において、国語科の「話すこと・聞くこと」に関する問題に課題が残ったため、各教科や総合的な学習の時間において対話的な授業を展開する必要があると考える。

《参考資料》

宮崎県教育振興基本計画（２０２３年度版）　　日南市教育振興基本計画（２０２０年度版）
宮崎県教育委員会義務教育課「ひなたの学び」リーフレット（2023 年度版）